

既存の無線LANを廃止しD-Link無線LANに統一 クラウド経由で各拠点の接続状況を一元管理し シームレスな社内ネットワークへのアクセスも実現

NIKKO



日興通信株式会社

1947年、終戦直後の東京で「日本の復興に寄与したい」との思いから創業。通信設備工事業からコンピュータの販売やソフトウェア開発など事業を拡大。20年ほど前からは通信とコンピュータを融合するネットワーク分野にも事業領域を広げ、現在はネットワークインフラの構築や業務ソフトウェアの開発、導入後の保守やクラウド運用サービスなど多彩なソリューションをワンストップで提供している。

〒156-0054

東京都世田谷区桜丘 1-2-22

URL : <https://www.nikkotelecom.co.jp/>



日興通信株式会社
理事
情報システム部長
金子 征文 氏



日興通信株式会社
ネットワーク事業部
ネットワークシステム部
システム1課
課長
仁藤 元史 氏



日興通信株式会社
情報システム部
情報システム課
主任
池田 修一 氏

日興通信株式会社(以下、日興通信)は、社内ネットワークインフラ全体のリプレイスプロジェクトを実施し、従来の無線LANを廃止して、「D-Link Business Cloud」に統一することを決断。全拠点33箇所にPoE(Power over Ethernet)に対応したアクセスポイント「DBA-1510P」と、ギガビットWebスマートレイヤ2スイッチ「DGS-1100-08P」を導入することで、本社からの一元管理を実現し、電波状況や接続状況の可視化のほか、グループごとの設定変更、全拠点どこでも社内ネットワークに接続可能な環境を構築。社員の業務効率を大幅に改善した。

POINT

- ① 無線LAN環境を統一し厳格なアクセスコントロールを実現
- ② 社内ネットワークへアクセスする煩雑な設定作業から出張者を解放
- ③ 各拠点の接続状況を一元管理しメンテナンス工数を大幅に削減

D-Link Business Cloud



DBA-1510P



DGS-1100-08P

ネットワーククラウド管理サービス・無線LAN AP/PoEレイヤ2スイッチ

「D-Link Business Cloud」は、無線LANコントローラ機能をクラウドで一元管理し、導入時や運用時の管理者負担を大きく軽減する次世代型ソリューションです。日本語完全対応のGUIでWi-Fiポリシーを設定し、無線LANアクセスポイント「DBA-1510P」の電源投入(もしくはPoE受電)、LANケーブル接続で、ライセンスキーによりクラウドから自動的にポリシーが適用され、すぐに無線LANを利用できます。また、IEEE 802.11ac3ストリームに対応し、5GHzでは最大1300Mbpsの高速通信が可能な上、2.4GHz/5GHzデュアルバンド同時利用にも対応しています。

「DGS-1100-08P」は、10/100/1000BASE-Tポートを8ポート搭載し、基本的な管理機能と共に最適なコストパフォーマンスを提供する最新のギガビットEasyスマートスイッチです。ポートミラーリングやIGMPスヌーピングなど最低限必要なL2機能を搭載し、ファンレス・省電力対応・コンパクト設計・低コストが特徴です。また、Web GUIとD-Link Network Assistant(DNA)を使用した効率的な管理でシンプルなネットワークを簡単に構築でき、専門の管理者が不在な中小規模のビジネスシーンなどでも最適なソリューションを提供します。

高い操作性により想定以上の業務効率化が実現し メンテナンス業務にかかる工数を大幅に軽減

拠点ごとに異なる無線LANを構築 出張のたびに煩雑な設定作業が課題

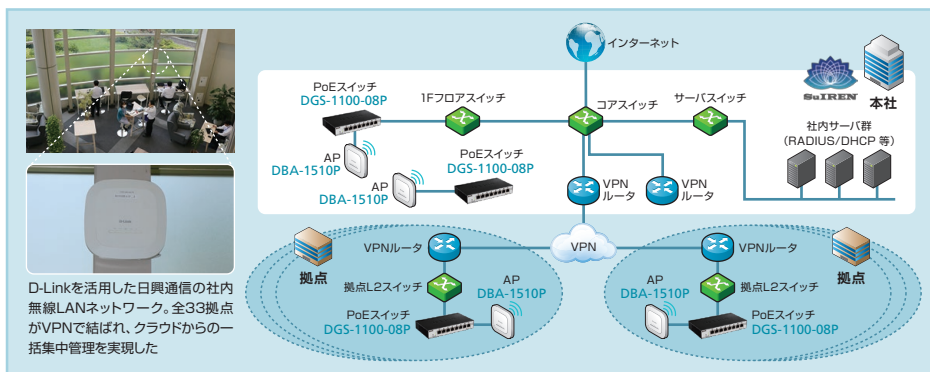
日興通信は、2017年に「SuiREN」(Secure & Innovative Redundant Network; スイレン)と名付けられた社内ネットワークインフラ全体をリプレースするプロジェクトを敢行し、業務環境を大幅に改善し続けている。SuiRENでは、1)ネットワークの強靭化や、2)情報セキュリティの強化と自立型システム、3)デスクトップ仮想化・クラウド型無線LANなどを駆使した柔軟なネットワーク、4)ネットワーク運用管理の効率化などを実現した。一方で、構築・運用の経験とノウハウをお客様に提供することも目的としている。

その中の、クラウド型無線LANの社内導入において、ディーリンクジャパンの「D-Link Business Cloud」(以下、D-Link)が活用された。

日興通信 理事 情報システム部長の金子 征文氏は、その背景について次のように説明する。「以前の社内無線LAN環境は、各拠点の判断で機器が導入されていたことから、本社の情報システム部で各拠点の状況を把握することも困難な上に、出張者が各拠点で社内ネットワークにアクセスしようとするたびに煩雑な設定作業が必要なお客さまが大きな課題でした。SuiRENを機に、社内無線LAN環境を統一し、一元管理も可能にしたいと考えました」

既存の無線LANは廃止し 社内アクセスは全てD-Linkに統一

2017年11月に、社内情報系ネットワークを構築するタイミングで、無線LAN環境の更新が検討された。中でもD-Linkに注目した理由について、日興通信 ネットワーク事業本部 システム部 システム1課 課長 仁藤 元史氏は、「クラウドを経由したWi-Fi 設定・監視の一括集中管理や、電子証明書や二要素認証などによる接続端末の制限とセキュリティ強化、LANケーブルをつなぐだけの簡単設置などの特徴は、他社にないD-Linkならではのもの。また、自社で運用経験を



積むことで、SuiRENを外販する際に、営業担当者がお客さまからの質問や相談にもお答えしやすくなるのではないかと考えました」と語る。

その後、D-Linkの導入が正式に決定した。無線LANアクセスポイント「DBA-1510P」が39台と、スマートタイプのギガビット8ポートレイヤ2スイッチ「DGS-1100-08P」が34台導入され、本社のほか、支社・支店・営業所・テクニカルセンター・サポートセンターの33事業所全てに設置。2018年5月に本番運用が開始された。

日興通信 情報システム部 情報システム課 主任 池田 修一氏は、「導入フェーズでは拠点にDBA-1510PとDGS-1100-08Pを配布し、設置作業は現場の担当者に任せることにしました。両モデルはPoE (Power over Ethernet)に対応しているため、LANケーブルを差し込むだけで細かな設定はインターネットを介して自動で行われます。そのおかげで、短期導入と速やかな運用開始が可能になりました」と振り返る。

日興通信では、既存の無線LANアクセスポイント・有線LANは全て廃止し、社内アクセスは全てVLANを経由したD-Linkに統一した。同時に、社員の端末には電子証明書を配布し、未承認端末の無断接続も防止している。

効果を体感できるD-Linkは プロジェクトの苦勞が報われる存在

池田氏は、「本社からクラウド経由で各拠点の電波状況や接続状況をGUI画面で一元的に可視

化できるため、グループごとの一括した設定変更や、設置位置の変更指示などを行うことが可能になりました」と述べる。現場のトラフィックを分析するための基礎データが収集できるほか、高い操作性によって想定以上に業務効率化が図られるため、メンテナンス業務にかかる工数が大幅に軽減しているという。

また、金子氏は、「全拠点どこでも同じ設定で社内ネットワークに接続できるようになったため、特に出張の多い社員からは便利になったと非常に好評です。SuiRENプロジェクトでは社員が利便さを実感する機会が少なく、感謝されることもあまりないのですが、D-Linkはリアルに効果を体感してもらえるため、情報システム部としてはプロジェクトの苦勞が報われる貴重な存在だと感じています」と語る。

今後、日興通信では、D-Linkの導入をグループ会社まで拡大していくという。また、今回の構築・運用ノウハウを活かし、お客様への提案、販売を本格化していく計画だ。

「これからは、働き方改革の実現や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、無線LAN環境の新設や更新を考えるとお客様も増えてくるのが予想されるため、D-Linkの重要性はより高まっていくでしょう」と金子氏は期待を込める。

企業のライフラインであるネットワークインフラを強化し、社会の要請に対応する柔軟な会社組織運営の実現をめざす日興通信。SuiRENによる変革が今後どのように広がるか大いに注目される。